大学の世界展開力強化事業
令和4（2022） 年度採択
令和5(2023) 年度フォローアップ結果

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会

令和6(2024) 年3月8日

独立行政法人 日本学術振興会

フォローアップの総括

2022年度に採択された14件のプログラムについて

① 交流プログラムの内容

② 質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

③ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

④ 事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

⑤ 特記すべき成果

⑥ オンラインを活用した工夫・改善点

上記の6観点により、計画の進捗状況や設定した達成目標に対する実績（派遣・受入学生数）等を調査票によりフォローアップの上、主なものを抽出・整理した。

フォローアップの総括

2022年度は事業初年度であるため派遣・受入計画を行わず準備期間に充てた事業もあるが、初年度から積極的に派遣・受入を実施し目標値を上回る実績を挙げた事業も少なくない。全体での目標の達成率は非常に高い数値となっており、派遣・受入ともに120%を超える達成率となっているため今後の事業本格実施に伴いさらなる交流推進へと期待が持てる結果となっている。

なお、このフォローアップは、大学の世界展開力強化事業の適正な事業管理を行うとともに、採択プログラムにおける円滑な事業実施の支援や成果の還元のため、各取組の進捗状況等を確認することを目的に実施しているものである。

取組の進捗状況
①交流プログラムの内容

○名古屋大学、岐阜大学　（交流先：オーストラリア）

学生シンポジウムにおいて、各プログラム成果報告を行うとともに、食料安全保障に関するワークショップを実施し、国や地域、分野を超えた学生の学際的連携により、課題解決に向けた国際協働能力の修得に取り組んだ。

神戸大学　（交流先：オーストラリア）

実渡航でのオーストラリア派遣において、英語による工学系講義の受講や、市民工学系や化学工学系の研究室への訪問とともに、オーストラリア連邦科学産業研究機構（CSIRO）や、オーストラリア原子力科学技術機構（ANSTO）の国立シンクロトロン放射施設訪問などの、キャンパス内外での学修を組み 合わせたプログラムを実施した。

長岡技術科学大学　（交流先：英国・インド）

コロナ禍の影響により、本学では2020年度と2021年度は授業の多くをオンラインやハイブリッド形式で行った。その際に録画した授業の画像データをもとに、「DXものづくり」及び「次世代EV」に関連する授業コンテンツの内容確認と整理を行った。
あわせて、海外連携大学で所有している同様のコンテンツについて情報収集を行い、次年度以降に編集作業が開始できるように環境を整備した。

①交流プログラムの内容

新潟大学　（交流先：インド・オーストラリア）

本事業で構築する予定の教育プラットフォームは、オンラインで学習した内容を現場（フィールド）で確かめるステップアップ形式の点が最大の特色である。参加学生は、自分の知識背景だけでなく、ミニ講義による新しい情報に基づいて現地のフィールドを視察し、現地スタッフとの議論を経て、未着手、未解明の地域課題へと取り組む新たな研究テーマの立案および解決方策の提示をした。この課題設定は、地域のフィールド科学に貢献し、国際的にも新規性を期待できるものだと現地教員から評価されている。

千葉大学　（交流先：英国・インド・オーストラリア）

日本とインドの参加学生は渡航先での現地演習の他、自国内においてもバディとして相互に演習に同行・同席し、前後にはMetaverseプラットフォーム上にて共同学習を行うといった、実渡航より長期かつ多様な形式での国際共同学習となるプログラムを開発・提供した。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

お茶の水女子大学　（交流先：英国・オーストラリア）

本プログラムを学内における「全学EDI学際カリキュラム」とし、リーダーシップ能力測定の評価尺度を検討をした。連携大学の教職員で運営委員会を設置し、交流促進のための覚書を策定した。オンライン会議や相互訪問を通して、各大学の強みを活かしたEDI科目を選定し、質を保証しうるプログラム設計を行った。

新潟大学　（交流先：インド・オーストラリア）

インド、オーストラリアの5大学（印：インド工科大学カーンプル校、インド工科大学ルールキー校、コーチン科学技術大学、豪：ウーロンゴン大学、マッコーリー大学）と大学間交流協定締結を行った。また、ペラデニア大学とはダブルディグリープログラム（DDP）協定を締結した。

○関西国際大学、神戸芸術工科大学、宮崎国際大学（交流先：英国・インド・オーストラリア）

プログラムの質保証を検証していくために、起業家育成国際協働カリキュラム委員会を設置した。国内連携大学、海外協力大学の担当教員及び事務局で構成し、2022年度は4回開催した。研修期間の調整、研修プログラム内容の確認、研修後のプログラム評価などを行い、プログラムの質の確保に努めている。また、海外協力大学の教員が神戸プログラムに参加できるよう配慮することにより、実際の運営を視察でき、それをもとに相互交流を活性化している。また、ウェスタン・シドニー大学との連携により、シドニープログラム参加者にはデジタルバッジが発行された。一方、JV-Campusと協議を重ね、2023年度のマイクロクレデンシャル発行に向けた準備をすすめた。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

東洋大学　（交流先：英国・オーストラリア）

2022年1月に完成した混住型国際交流宿舎をベースに留学生活を送っており、宿舎ではレジデントアシスタントや日本人学生とイベント等を通じて活発に交流している。
大学のサポートとしては、受入れ・派遣の双方とも職員による定期的な個別相談や、各種プログラムの相談会を複数回実施し、留学を希望する学生の不安が解消するようアドバイスしている。
また、オンラインによるビジネス日本語ティーチング入門講座を開発し、JV-Campusに連携することで、派遣学生が現地大学での日本語ボランティアに参加する際の資料とするなど、対面でのサポートのみならず、オンラインによる環境整備も進めている。

横浜国立大学　（交流先：インド・オーストラリア）

全学体制による企画・運営委員会を設立し、学生受入・派遣体制(公募、選定、派遣サポート、受入サポート、受入行程、宿泊等)の環境整備を行なった。派遣学生の選抜は、公募により面接実施し、学生の学年や専門性を考慮し、学生の希望と合わせて最適な協定校を選択する体制を整備した。受入学生は、本学学生と協働学修によるグループ発表、文化交流、研究室ツアー、企業訪問に取組み、アンケートプログラムに対し、高い満足度を得た。
円滑な派遣・受入体制構築に向け、各種ルールやサポートに関し、企画・運営委員会等で頻繁に協議を重ね、初年度から実渡航を伴う交流プログラムを始動した。公募要項による選定の上、オンラインの協働学修を経て派遣し、交流を図った。また、受入学生は本学学生との国際交流チームを編成してプログラムを実施し、高い満足度を得た。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

広島大学　（交流先：英国・インド・オーストラリア）

キックオフ会議を速やかに実施したことで、プログラムの円滑な実施と双方間の学生派遣を実施するための体制を整備することができた。
また、本学国際室に事業の専属職員を配置し、連携大学との連絡調整や学生受け入れのワンストップサービスとして機能させることで、オンラインでの交流を速やかに開始することができた。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

岐阜大学　（交流先：インド）

本事業の成果は、機関HPや機関誌での公表に加えて、本学が会長を務める全国大学JDP協議会での情報共有、東京大学が整備するJIEPPなどを通じた情報発信を行った。さらに、岐阜JDコンソーシアム参加企業への周知や、IITG訪問などを実現した。今後は、特に、企業や社会への発信を強化する予定である。

お茶の水女子大学　（交流先：英国・オーストラリア）

大学の国際化推進のために国際教育センターが中心となりプログラム基盤を学内に整備し、EDI関連授業のシラバスを日英で表示し海外からの学生受入に必要となる情報の英訳等を推進した。Webpage、Instagram、Slack、大学公式Twitter等で情報公開を行っている。さらにJV-Campusを用いて国内外の連携大学に発信し、成果の普及に努める。

東京芸術大学　（交流先：英国・インド・オーストラリア）

3月のロンドン派遣「IUEP GEIDAI 2023: Arts Mapping in London」では国際芸術創造研究科の教員3名、学生11名が参加し、ロンドン市内、ロンドン芸術大学セントラル・セント・マーチンズ校、ロンドン大学ゴールドスミス校への訪問・交流の成果を教員・学生ともにエッセイや論考として小冊子にまとめた。これによって交流プログラム各参加者の視点から、派遣事業全体のフィードバックとその成果の共有を行った。また、YouTubeなどのSNSやホームページを利用し、学外や民間企業に対しても交流活動の広報や周知を行なっている。

⑤特記すべき成果

東北大学　（交流先：英国）

短期及び中長期の派遣・受入れプログラムを行い、連携大学との相互の学生交流計画を着実に実現している。特に、戦略的パートナーであるユニバーシティ・カレッジ・ロンドンとは、レジリエンス社会創造・共同大学院プログラムの創設やその基盤となる学生交流の強化、新規のインターンシップ受入れプログラム等に関する協議を前進させている。
その他の連携3大学にも個別訪問し、教育連携の強化や学生交流の増加に向けた具体的な取り組みを進めることができている。３月に開催された世界防災フォーラムに連携大学から学生・研究者を招へいし、学生主体の意見交換ワークショップの実施など、本事業主催のセッションにおいて共同研究の成果を発表、レジリエンス社会の創造という本事業のヴィジョンと専門知を世界に発信した。

東京都市大学　（交流先：オーストラリア）

エディスコーワン大学とのジョイントディグリープログラム国際連携環境融合科学専攻の設置に向けた準備室会議は原則毎週開催してきた。また、エディスコーワン大学とのオンラインミーティングも原則2週間に一度の頻度で開催してきた。その結果、2023年4月に文部科学省に設置届出書を提出し、同年6月に受理報告を受けることができた。

⑤特記すべき成果

長岡技術科学大学　（交流先：英国・インド）

外部のサポートや保障機関も導入した安全管理体制を独自に構築し、さらに本学の現地コーディネータを活用することで、本事業での学生派遣計画を具体的に進めることができた。AMTDCと協力して教育・研究を推進することで、国際的な産学連携による技術者教育を実践できる体制を構築し、本事業終了後も産業界の協力による持続的なプログラムへと繋げることが期待できる。また、IITマドラス及びヨーク大学と本学の教員による研究交流を推進する体制が整い、次年度以降、リサーチインターンシップを中心とした教員と学生の交流の促進を図ることができる。

東洋大学　（交流先：英国・オーストラリア）

カーティン大学と本学国際学研究科との間で修士課程レベルでの「ダブルディグリー・プログラム」協定を締結したことは特筆すべき成果と言える。また、当プロジェクトのキックオフ事業としてコロナ禍以降初の実渡航型オーストラリア短期研修を実施した点も大きな成果である。さらに、「日韓3+1プログラム」では国内でインターンシップを経験した留学生のうち、半数以上が国内企業の内定を得た点も当プロジェクトとして大きな成果である。

⑤特記すべき成果

横浜国立大学　（交流先：インド・オーストラリア）

横浜・神流川地域の産官学ネットワークを活用し、印・豪の協定校と共同で、国際協働学修、インターンシップ／インダストリアルツアー、国際共同シンポジウムを実施し、持続可能な未来社会を創造するSX人材を育成するための国際教育プログラム（一部単位化）を立ち上げ、初年度から活発な実渡航かつ単位付与を伴う相互交流を実施した。
また、学内に企画・運営委員会や外部評価委員会等を新設し、全学体制のもと統括・運営すると共に、プログラムの質保証体制を構築した。特に国際シンポジウムでは、国際協働グループによる学生参加型の企画セッションの実施による有益な学習効果が得られ、学生アンケートでもプログラムに対する高い満足度が得られると共に、派遣学生の修了前後で語学力向上が図られた。さらに、印・豪との協定拡充により学生・研究者交流が大いに進展し、ダブルディグリー締結に前向きな協定校が増加した。

○関西国際大学、神戸芸術工科大学、宮崎国際大学
（交流先：英国・インド・オーストラリア）

学生主体の国際交流プログラムとして開催した国際学生起業家会議では、5か国7大学の学生32名がグループに分かれ、起業する事業の背景、事業内容について、ゲストを含めて総勢71名の参加者の前で英語によりプレゼンし、専門家から事業のアイデア、実現性についてコメントを得た。研修成果の一環として行ったこの国際学生起業家会議を通じ、専門家によるフィードバックを受けることにより、研修内容をより深化させることができた。

⑥オンラインを活用した工夫・改善点

東北大学　（交流先：英国）

主に英国の連携校の学生をターゲットに、オンラインの短期トライアルコースを開催した。
英国の学生、日本の学生双方が参加可能な時間帯にオンラインで設定することで、費用や安全面で実渡航の難しさがある状況の中、気軽に試すことができるプログラムとして利用を促進することができた。連携大学の実務担当者と、実渡航訪問中の限られた時間では十分に議論できないことやプログラムの詳細に関して打ち合わせを行ったり、事業に派生して生まれた新たな共同研究の計画に関する打ち合わせなどでオンライン会議システムを活用している。
実際の学生交流では、短期受入れプログラムに利用したのみであるため、より多くの対象に向けた発信の可能性を検討する必要がある。

東京都市大学　（交流先：オーストラリア）

AOFUAサマーキャンププログラム（2022年8月実施）は、コロナ禍の影響により全日程（3日間）をオンラインで実施した。ホスト大学は、フィリピンのデラサール大学であり、本学、マレーシア日本国際工科院、エディスコーワン大学、タマサート大学シリントーン国際部から各大学5名の学生が参加した。SDGsをテーマに問題解決のワークショップを行ったが、学生同士がお互いに助け合う姿を見ることができた。

東京芸術大学　（交流先：英国・インド・オーストラリア）

パートナー校のポリシー（フライト多用に対する環境負荷配慮）による渡航制限があるケースもあったため、オンライン環境での講義・受講可能なプログラムを用意することで柔軟にオンライン、対面の切り替えを行いプログラムを実施した。また、講師はオンライン、受講学生は対面にてワークショップを行ったりするなど、遠隔でありながらも対面での教育効果を大きく損なうことなくプログラムが実施できた。

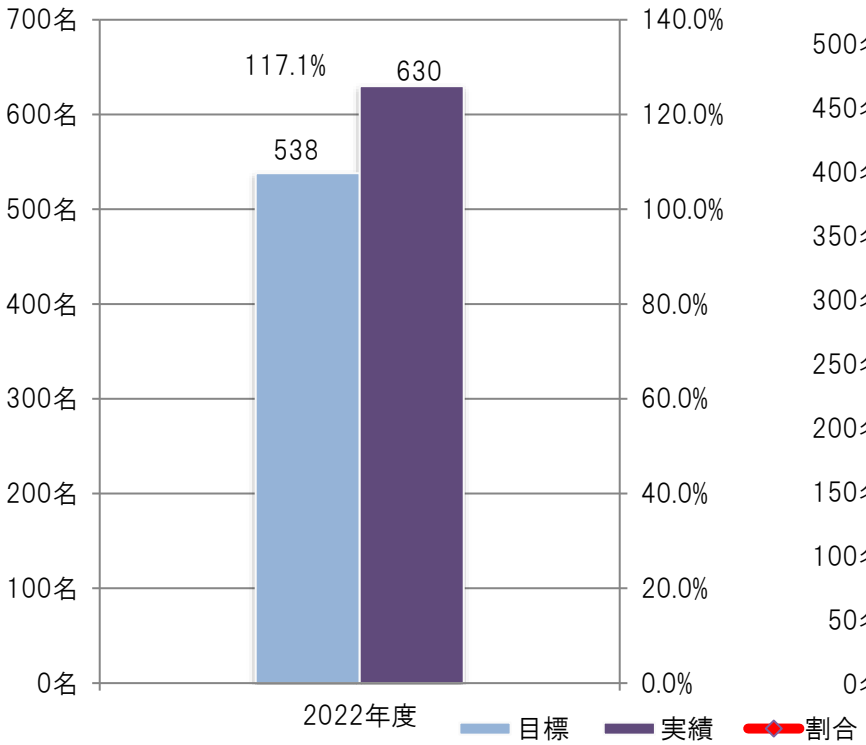
交流学生数の実績

（１－１）交流プログラムで留学した日本人学生数（派遣学生数）について

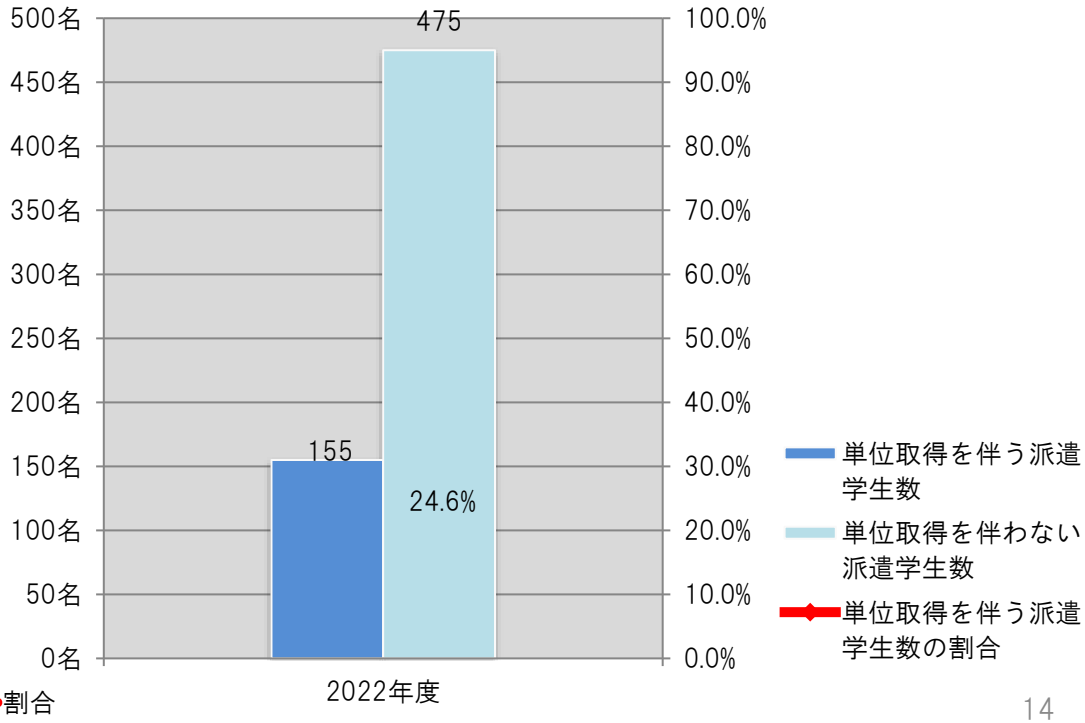
＜全体の状況＞

2022年度はオンライン交流の定着及び渡航制限等の解除が追い風となり、目標以上の実績を上げた大学もあった。
全体的には目標を超える約117%の達成率となり、日本人学生数(派遣学生数)の約4人に1人が単位取得を伴う交流であった。

目標に対する実績の割合（派遣）



〈参考〉単位取得を伴う派遣学生数

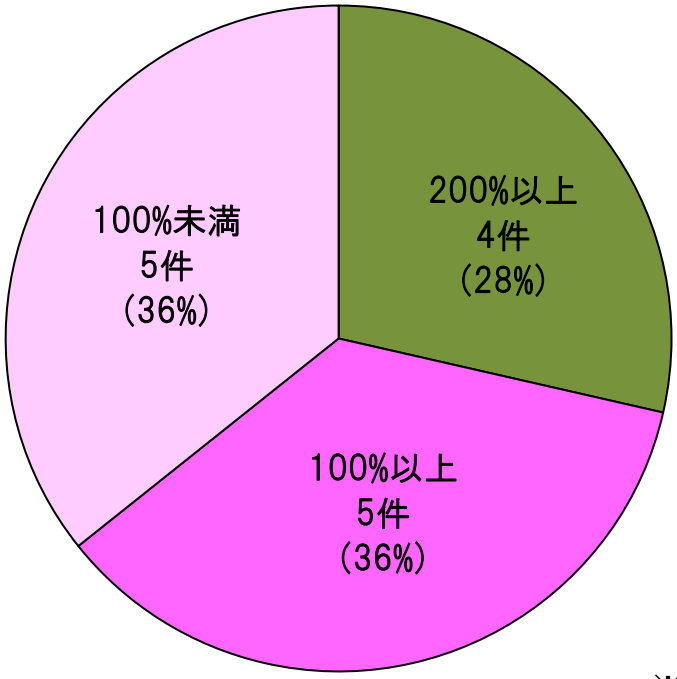


（１－２）交流プログラムで留学した日本人学生数（派遣学生数）について

＜各プログラムの状況（2022年度）＞

2022年度は初年度ということもあり、当初の想定(計画)より下回った大学もあるが、一方でオンラインを活用した交流等により200%以上の派遣を達成した大学もある。

実績の割合（派遣）



※個別の派遣学生数の詳細は別表１参照

（１－３）交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

○名古屋大学、岐阜大学　（交流先：オーストラリア）

プログラムの初年度であったが、ハイブリッド派遣およびオンライン派遣において、計画以上の派遣が達成でき、効果的な国際教育を提供できた。また、年度末に実施した学生シンポジウムでは、日本、オーストラリア、東南アジアの学生が参加し、国、地域、文理の枠を超えた分野横断的な知識を駆使し、課題解決に取り組む国際共同教育を実施することができた。

広島大学　（交流先：英国・インド・オーストラリア）

オンラインで実施することによって双方向のプログラムとして提供し、3カ国の学生が集う国際的な学習の場の提供を行うことができた。また、コロナ禍ではあっても、本事業が目指す学生の協働の機会を提供することができた。
COIL型教育では、協定大学の学生と協働するだけではなく、協定大学や外部の大学より講師が講義をすることで、学生が疑似的に留学したような空間で学習できる環境を提供し、ワークショップ、実渡航を伴う中長期留学プログラムへの参加意欲向上や具体的な参加イメージの構築、プログラムを通じて出会った学生同士が起業に向けた検討を開始している。

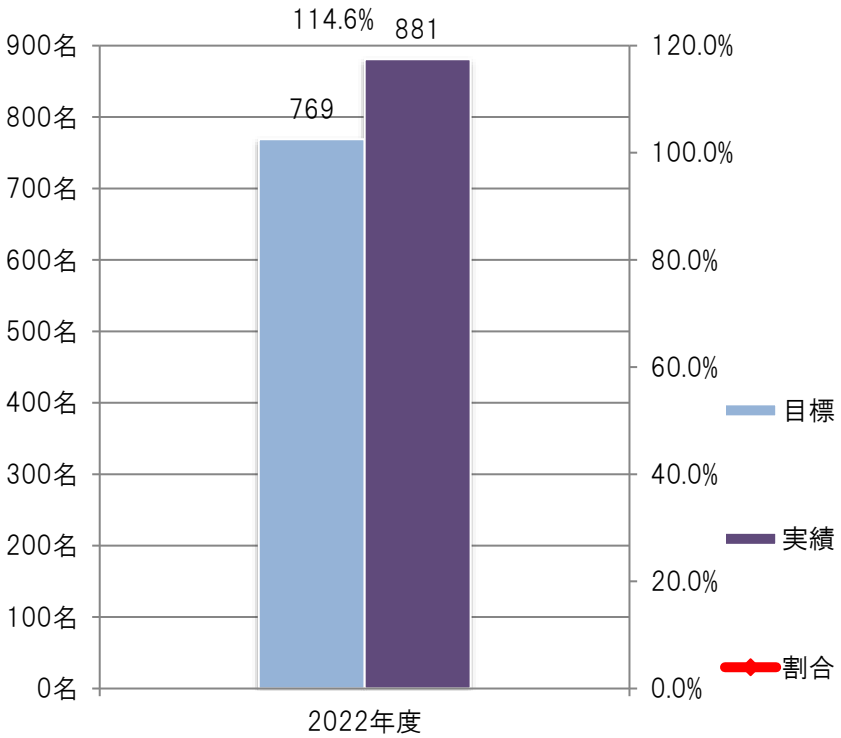
交流学生数の実績

（２－１）交流プログラムで受け入れた外国人学生数（受入学生数）について

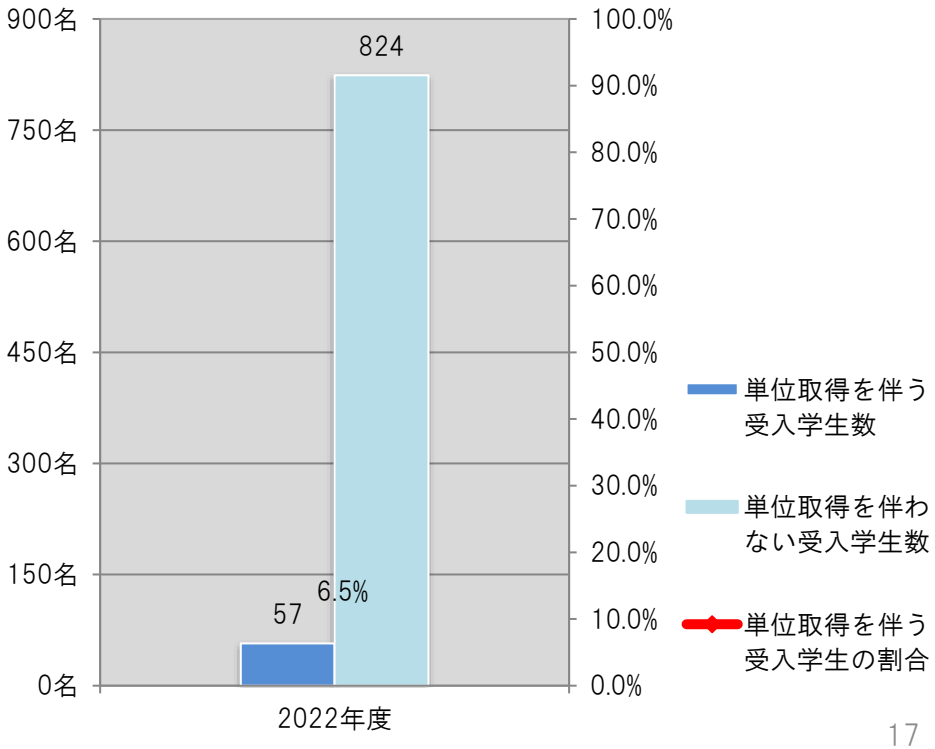
＜全体の状況＞

前述のとおりオンライン交流の定着及び渡航制限等の解除により、初年度から計画目標を超える約115%の達成率となった。
一方で、外国人学生数(受入学生数)のほとんどが単位取得を伴わない交流であり、単位取得を伴う受入は、全体で約6.5%であった。

達成目標に対する実績の割合（受入）



単位取得を行う受入学生の割合

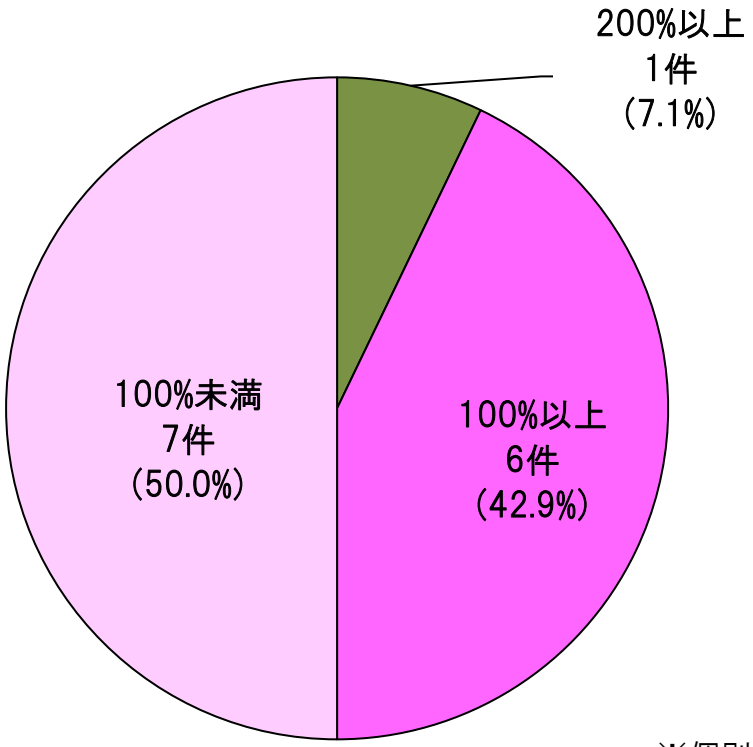


（２－２）交流プログラムで受け入れた外国人学生数（受入学生数）について

＜各プログラムの状況（2022年度）＞

派遣学生数と同様、半数の大学が当初の想定(計画)を上回っているが、一方で想定（計画）の半分にも満たない大学も少なくない。

実績の割合（受入）



※個別の受入学生数の詳細は別表2参照

（２－３）交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

岐阜大学　（交流先：インド）

ウインタースクールでは、日本語・日本文化を学ぶ機会と、企業見学（4社）、本学での研究体験、地域理解（多治見研修）を実施し、日本・岐阜地域の理解を深めた。また、東京にて、大手食品メーカーの一つである味の素（株）の中央研究所の見学や、JICA本部における見学・議論を実施し、これにはJETRO職員も同行するなど、JDと関連性が深い領域における産業、国際的な地域開発支援の実態などを学ぶことができた。なお、2023年度も同様な取り組みを実施する予定である。

神戸大学　（交流先：オーストラリア）

2023年度に始動する、実渡航をともなう受入プログラム（サマースクール）参加予定者は、2022年度の海外派遣先だったロイヤルメルボルン工科大学(RMIT) の学生が多くを占めている。そのため、構想段階から、RMITに派遣した学生が受入プログラムにも参加し、継続して交流できるよう、また、2023年度にRMITに派遣予定のプログラム生も、派遣先の学生と事前に交流できるよう、プログラムを組んでいる。

千葉大学　（交流先：英国・インド・オーストラリア）

初年度であり看護系学生のみの参加となったが学部生・研究科学生という多様性を確保した。計画通り、日本において、日本の特徴的な高齢者に関する社会課題解決に取り組む学習活動を行った。自国内での事前事後学習も含め計画通りに実施し、参加学生全員が単位認定に至った。

別表1：プログラムごとの派遣学生数（2022年度採択）

（単位：人）

主な交流先	大学名	事業名	取組年度	合計人数		達成目標に対する実績の割合（%）	（内訳）															
							単位取得を伴う派遣学生数								左記以外の派遣学生数							
							（計）		30日未満		3ヶ月未満		3ヶ月以上		（計）		30日未満		3ヶ月未満		3ヶ月以上	
				目標（計）	実績（計）		目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
英国	東北大学	レジリエントな社会を創造する日英米大学の国際連携	2022	8	21	262.5	8	17	8	16	0	0	0	1	0	4	0	4	0	0	0	0
			2023	20	0	0.0	20	0	12		0		8		0	0	0		0		0	
			2024	30	0	0.0	30	0	15		0		15		0	0	0		0		0	
			2025	40	0	0.0	40	0	20		0		20		0	0	0		0		0	
			2026	47	0	0.0	47	0	25		0		22		0	0	0		0		0	
			計	145	21	14.5	145	17	80	16	0	0	65	1	0	4	0	4	0	0	0	0
インド	岐阜大学	グローカルJDPプラットフォーム形成による北東インド・東海圏における実践力のある高度人材育成	2022	13	20	153.8	2	1	0	0	0	0	2	1	11	19	3	10	8	9	0	0
			2023	16	0	0.0	5	0	0		2		3		11	0	3		8		0	
			2024	22	0	0.0	10	0	0		5		5		12	0	4		8		0	
			2025	29	0	0.0	15	0	0		8		7		14	0	6		8		0	
			2026	34	0	0.0	19	0	0		9		10		15	0	7		8		0	
			計	114	20	17.5	51	1	0	0	24	0	27	1	63	19	23	10	40	9	0	0
オーストラリア	名古屋大学、岐阜大学	ポストSDGs時代の経済安全保障に貢献できる自律協働型国際プロフェッショナル人材育成	2022	149	274	183.9	8	21	6	21	2	0	0	0	141	253	139	252	2	0	0	1
			2023	163	0	0.0	16	0	6		6		4		147	0	145		2		0	
			2024	163	0	0.0	16	0	6		6		4		147	0	145		2		0	
			2025	160	0	0.0	13	0	6		4		3		147	0	145		2		0	
			2026	159	0	0.0	12	0	6		4		2		147	0	145		2		0	
			計	794	274	34.5	65	21	30	21	22	0	13	0	729	253	719	252	10	0	0	1
	神戸大学	世界的課題解決に向けた工学系グローバル人材育成のための国際共修/協働学修プログラム	2022	15	30	200.0	15	30	15	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			2023	20	0	0.0	20	0	20		0		0		0	0	0		0		0	
			2024	20	0	0.0	20	0	20		0		0		0	0	0		0		0	
			2025	22	0	0.0	22	0	22		0		0		0	0	0		0		0	
			2026	23	0	0.0	23	0	23		0		0		0	0	0		0		0	
			計	100	30	30.0	100	30	100	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	東京都市大学	アジア大洋州国際キャンパスにおけるカーボンニュートラル社会の実現に貢献できる人材養成プログラム	2022	22	8	36.4	0	0	0	0	0	0	0	0	22	8	20	0	2	8	0	0
			2023	7	0	0.0	0	0	0		0		0		7	0	5		2		0	
			2024	10	0	0.0	5	0	0		0		5		5	0	5		0		0	
			2025	10	0	0.0	5	0	0		0		5		5	0	5		0		0	
			2026	10	0	0.0	5	0	0		0		5		5	0	5		0		0	
			計	59	8	13.6	15	0	0	0	0	0	15	0	44	8	40	0	4	8	0	0
英国・インド	長岡技術科学大学	マルチディメンジョン・キャンパスでのデュアルインターンシップを活用した国際協働学習プログラム	2022	2	5	250.0	0	2	0	2	0	0	0	0	2	3	2	2	0	1	0	0
			2023	15	0	0.0	9	0	0		0		9		6	0	6		0		0	
			2024	26	0	0.0	20	0	7		0		13		6	0	6		0		0	
			2025	39	0	0.0	32	0	11		0		21		7	0	6		0		1	
			2026	39	0	0.0	32	0	11		0		21		7	0	6		0		1	
			計	121	5	4.1	93	2	29	2	0	0	64	0	28	3	26	2	0	1	2	0
英国・オーストラリア	お茶の水女子大学	グローバルリーダー育成のための「女子大学発」実学型EDIプログラム	2022	50	6	12.0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	6	50	6	0	0	0	0
			2023	118	0	0.0	18	0	8		0		10		100	0	100		0		0	
			2024	139	0	0.0	39	0	26		0		13		100	0	100		0		0	
			2025	194	0	0.0	44	0	28		0		16		150	0	150		0		0	
			2026	203	0	0.0	53	0	34		0		19		150	0	150		0		0	
			計	704	6	0.9	154	0	96	0	0	0	58	0	550	6	550	6	0	0	0	0
	東洋大学	ビジネス日本語教育を通じた高度日本語人材と多文化共生グローバル人材の育成プログラム	2022	165	181	109.7	25	38	10	27	0	0	15	11	140	143	140	143	0	0	0	0
			2023	325	0	0.0	35	0	0		0		35		290	0	290		0		0	
			2024	339	0	0.0	49	0	12		0		37		290	0	290		0		0	
			2025	328	0	0.0	38	0	0		0		38		290	0	290		0		0	
			2026	351	0	0.0	61	0	12		0		49		290	0	290		0		0	
			計	1508	181	12.0	208	38	34	27	0	0	174	11	1300	143	1300	143	0	0	0	0
インド・オーストラリア	横浜国立大学	レジリエントな社会への変革をリードする産官学連携ヨコハマ国際教育プログラム	2022	12	9	75.0	12	9	12	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			2023	18	0	0.0	18	0	18		0		0		0	0	0		0		0	
			2024	18	0	0.0	18	0	18		0		0		0	0	0		0		0	
			2025	18	0	0.0	18	0	18		0		0		0	0	0		0		0	
			2026	18	0	0.0	18	0	18		0		0		0	0	0		0		0	
			計	84	9	10.7	84	9	84	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	新潟大学	インド太平洋地域の「仮想フィールド」を利活用したハイブリッド型フィールド科学人材育成プログラム	2022	20	20	100.0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	20	20	20	0	0	0	0
			2023	60	0	0.0	60	0	50		6		4		0	0	0		0		0	
			2024	65	0	0.0	65	0	51		8		6		0	0	0		0		0	
			2025	65	0	0.0	65	0	51		8		6		0	0	0		0		0	
			2026	80	0	0.0	80	0	62		9		9		0	0	0		0		0	
			計	290	20	6.9	270	0	214	0	31	0	25	0	20	20	20	20	0	0	0	0

英国・インド・オーストラリア	千葉大学	グローバル地域ケアIPEプラス創生人材の育成（GRIP Program）	2022	10	10	100.0	10	10	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			2023	15	0	0.0	15	0	15		0		0		0	0	0		0		0	
			2024	20	0	0.0	20	0	20		0		0		0	0	0		0		0	
			2025	30	0	0.0	30	0	30		0		0		0	0	0		0		0	
			2026	40	0	0.0	40	0	40		0		0		0	0	0		0		0	
			計	115	10	－	115	10	115	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	東京芸術大学	Shared Campus（国際共創キャンパス）を活用した日英豪印 SDGs x ARTsグローバルリーダー養成プログラムー世界を幸福にするイノベーション創出ー	2022	2	24	1200.0	2	9	2	9	0	0	0	0	0	15	0	15	0	0	0	0
			2023	10	0	0.0	7	0	6		0		1		3	0	3		0		0	
			2024	10	0	0.0	7	0	6		0		1		3	0	3		0		0	
			2025	10	0	0.0	7	0	6		0		1		3	0	3		0		0	
			2026	10	0	0.0	7	0	6		0		1		3	0	3		0		0	
			計	42	24	57.1	30	9	26	9	0	0	4	0	12	15	12	15	0	0	0	0
	広島大学	国際協働学習を通じて醸成するアジャイル・アントレプレナーシップ	2022	10	2	20.0	10	2	0	2	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			2023	21	0	0.0	17	0	0		10		7		4	0	4		0		0	
			2024	31	0	0.0	27	0	10		10		7		4	0	4		0		0	
			2025	21	0	0.0	17	0	0		10		7		4	0	4		0		0	
			2026	31	0	0.0	27	0	10		10		7		4	0	4		0		0	
			計	114	2	1.8	98	2	20	2	50	0	28	0	16	0	16	0	0	0	0	0
	関西国際大学、神戸芸術工科大学、宮崎国際大学	産学官連携ベンチャー・エコ・システム創成による起業家育成カリキュラムの展開	2022	30	10	33.3	30	8	20	8	10	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0
			2023	38	0	0.0	38	0	25		10		3		0	0	0		0		0	
			2024	40	0	0.0	40	0	20		15		5		0	0	0		0		0	
			2025	38	0	0.0	38	0	25		10		3		0	0	0		0		0	
			2026	45	0	0.0	45	0	25		15		5		0	0	0		0		0	
			計	191	10	5.2	191	8	115	8	60	0	16	0	0	2	0	2	0	0	0	0
総計				4,381	620	14.2	1,619	147	943	134	187	0	489	13	2,762	473	2,706	454	54	18	2	1

別表2：プログラムごとの受入学生数（2022年度採択）

（単位：人）

主な交流先	大学名	事業名	取組年度	合計人数 目標（計）	合計人数 実績（計）	達成目標に対する実績の割合（%）	（内訳）単位取得を伴う受入学生数（計）目標	（計）実績	30日未満 目標	30日未満 実績	3ヶ月未満 目標	3ヶ月未満 実績	3ヶ月以上 目標	3ヶ月以上 実績	左記以外の受入学生数（計）目標	（計）実績	30日未満 目標	30日未満 実績	3ヶ月未満 目標	3ヶ月未満 実績	3ヶ月以上 目標	3ヶ月以上 実績
英国	東北大学	レジリエントな社会を創造する日英米大学の国際連携	2022	10	16	160.0	0	5	0	0	0	0	0	5	10	11	10	11	0	0	0	0
			2023	20	0	0.0	5	0	0		0		5		15	0	15		0		0	
			2024	35	0	0.0	20	0	0		0		20		15	0	15		0		0	
			2025	45	0	0.0	25	0	0		0		25		20	0	20		0		0	
			2026	50	0	0.0	28	0	0		0		28		22	0	22		0		0	
			計	160	16	10.0	78	5	0	0	0	0	78	5	82	11	82	11	0	0	0	0
インド	岐阜大学	グローカルJDPプラットフォーム形成による北東インド・東海圏における実践力のある高度人材育成	2022	20	21	105.0	7	11	0	0	0	0	7	11	13	10	9	6	4	4	0	0
			2023	16	0	0.0	8	0	0		0		8		8	0	4		4		0	
			2024	20	0	0.0	10	0	0		1		9		10	0	6		4		0	
			2025	23	0	0.0	12	0	0		1		11		11	0	7		4		0	
			2026	26	0	0.0	14	0	0		1		13		12	0	8		4		0	
			計	105	21	20.0	51	11	0	0	3	0	48	11	54	10	34	6	20	4	0	0
オーストラリア	名古屋大学、岐阜大学	ポストSDGs時代の経済安全保障に貢献できる自律協働型国際プロフェッショナル人材育成	2022	280	608	217.1	13	0	5	0	5	0	3	0	267	608	267	608	0	0	0	0
			2023	282	0	0.0	15	0	5		5		5		267	0	267		0		0	
			2024	282	0	0.0	15	0	5		5		5		267	0	267		0		0	
			2025	283	0	0.0	16	0	5		5		6		267	0	267		0		0	
			2026	282	0	0.0	15	0	5		5		5		267	0	267		0		0	
			計	1409	608	43.2	74	0	25	0	25	0	24	0	1335	608	1335	608	0	0	0	0
	神戸大学	世界的課題解決に向けた工学系グローバル人材育成のための国際共修/協働学修プログラム	2022	20	0	0.0	20	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			2023	20	0	0.0	20	0	20		0		0		0	0	0		0		0	
			2024	20	0	0.0	20	0	20		0		0		0	0	0		0		0	
			2025	20	0	0.0	20	0	20		0		0		0	0	0		0		0	
			2026	20	0	0.0	20	0	20		0		0		0	0	0		0		0	
			計	100	0	0.0	100	0	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	東京都市大学	アジア大洋州国際キャンパスにおけるカーボンニュートラル社会の実現に貢献できる人材養成プログラム	2022	17	1	5.9	0	0	0	0	0	0	0	0	17	1	15	1	2	0	0	0
			2023	2	0	0.0	0	0	0		0		0		2	0	0		2		0	
			2024	0	0	－	0	0	0		0		0		0	0	0		0		0	
			2025	25	0	0.0	5	0	0		0		5		20	0	20		0		0	
			2026	5	0	0.0	5	0	0		0		5		0	0	0		0		0	
			計	49	1	－	10	0	0	0	0	0	10	0	39	1	35	1	4	0	0	0
英国・インド	長岡技術科学大学	マルチディメンジョン・キャンパスでのデュアルインターンシップを活用した国際協働学習プログラム	2022	1	1	100.0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0
			2023	11	0	0.0	5	0	0		0		5		6	0	6		0		0	
			2024	20	0	0.0	13	0	7		0		6		7	0	6		0		1	
			2025	32	0	0.0	23	0	13		0		10		9	0	6		0		3	
			2026	32	0	0.0	23	0	13		0		10		9	0	6		0		3	
			計	96	1	1.0	64	0	33	0	0	0	31	0	32	1	25	1	0	0	7	0
英国・オーストラリア	お茶の水女子大学	グローバルリーダー育成のための「女子大学発」実学型EDIプログラム	2022	50	7	14.0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	7	50	7	0	0	0	0
			2023	176	0	0.0	26	0	16		0		10		150	0	150		0		0	
			2024	183	0	0.0	33	0	20		0		13		150	0	150		0		0	
			2025	242	0	0.0	42	0	26		0		16		200	0	200		0		0	
			2026	251	0	0.0	51	0	32		0		19		200	0	200		0		0	
			計	902	7	0.8	152	0	94	0	0	0	58	0	750	7	750	7	0	0	0	0
	東洋大学	ビジネス日本語教育を通じた高度日本語人材と多文化共生グローバル人材の育成プログラム	2022	203	140	69.0	33	9	0	0	0	0	33	9	170	131	170	131	0	0	0	0
			2023	318	0	0.0	43	0	0		0		43		275	0	270		5		0	
			2024	318	0	0.0	43	0	0		0		43		275	0	270		5		0	
			2025	318	0	0.0	43	0	0		0		43		275	0	270		5		0	
			2026	328	0	0.0	53	0	0		0		53		275	0	270		5		0	
			計	1485	140	9.4	215	9	0	0	0	0	215	9	1270	131	1250	131	20	0	0	0
インド・オーストラリア	横浜国立大学	レジリエントな社会への変革をリードする産官学連携ヨコハマ国際教育プログラム	2022	12	12	100.0	12	12	12	10	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
			2023	18	0	0.0	18	0	18		0		0		0	0	0		0		0	
			2024	18	0	0.0	18	0	17		0		1		0	0	0		0		0	
			2025	18	0	0.0	18	0	17		0		1		0	0	0		0		0	
			2026	18	0	0.0	18	0	17		0		1		0	0	0		0		0	
			計	84	12	14.3	84	12	81	10	0	0	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	新潟大学	インド太平洋地域の「仮想フィールド」を利活用したハイブリッド型フィールド科学人材育成プログラム	2022	20	29	145.0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	29	20	29	0	0	0	0
			2023	65	0	0.0	65	0	54		7		4		0	0	0		0		0	
			2024	70	0	0.0	70	0	55		10		5		0	0	0		0		0	
			2025	70	0	0.0	70	0	55		10		5		0	0	0		0		0	
			2026	85	0	0.0	85	0	65		13		7		0	0	0		0		0	
			計	310	29	9.4	290	0	229	0	40	0	21	0	20	29	20	29	0	0	0	0

英国・インド・オーストラリア	千葉大学	グローバル地域ケアIPEプラス創生人材の育成（GRIP Program）	2022	10	10	100.0	0	10	0	10	0	0	0	0	10	0	10	0	0	0	0	0
			2023	15	0	0.0	3	0	3		0		0		12	0	12		0		0	
			2024	20	0	0.0	3	0	3		0		0		17	0	17		0		0	
			2025	30	0	0.0	5	0	5		0		0		25	0	25		0		0	
			2026	40	0	0.0	8	0	8		0		0		32	0	32		0		0	
			計	115	10	8.7	19	10	19	10	0	0	0	0	96	0	96	0	0	0	0	0
	東京芸術大学	Shared Campus（国際共創キャンパス）を活用した日英豪印 SDGs x ARTsグローバルリーダー養成プログラムー世界を幸福にするイノベーション創出ー	2022	6	4	66.7	6	4	6	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			2023	21	0	0.0	12	0	9		0		3		9	0	9		0		0	
			2024	21	0	0.0	12	0	9		0		3		9	0	9		0		0	
			2025	21	0	0.0	12	0	9		0		3		9	0	9		0		0	
			2026	21	0	0.0	12	0	9		0		3		9	0	9		0		0	
			計	90	4	4.4	54	4	42	4	0	0	12	0	36	0	36	0	0	0	0	0
	広島大学	国際協働学習を通じて醸成するアジャイル・アントレプレナーシップ	2022	40	2	5.0	40	2	0	2	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			2023	72	0	0.0	67	0	20		40		7		5	0	4		1		0	
			2024	52	0	0.0	47	0	0		40		7		5	0	4		1		0	
			2025	72	0	0.0	67	0	20		40		7		5	0	4		1		0	
			2026	52	0	0.0	47	0	0		40		7		5	0	4		1		0	
			計	288	2	0.7	268	2	40	2	200	0	28	0	20	0	16	0	4	0	0	0
	関西国際大学、神戸芸術工科大学、宮崎国際大学	産学官連携ベンチャー・エコ・システム創成による起業家育成カリキュラムの展開	2022	40	15	37.5	40	2	24	2	16	0	0	0	0	13	0	13	0	0	0	0
			2023	58	0	0.0	58	0	33		20		5		0	0	0		0		0	
			2024	63	0	0.0	63	0	38		20		5		0	0	0		0		0	
			2025	59	0	0.0	59	0	28		26		5		0	0	0		0		0	
			2026	63	0	0.0	63	0	38		20		5		0	0	0		0		0	
			計	283	15	5.3	283	2	161	2	102	0	20	0	0	13	0	13	0	0	0	0
総計				5,476	866	15.8	1,742	55	824	28	370	0	548	27	3,734	811	3,679	807	48	4	7	0